

イーストスプリング・ インド・インフラ株式ファンド

追加型投信／海外／株式



当ファンドの主なリスク

株価変動リスク/為替変動リスク/信用リスク/流動性リスク/カントリーリスク

当ファンドは、値動きのある投資信託証券を主要投資対象とします。このため、一般的にわが国の預貯金および国債等と比較して高いリスクがありますので、ご購入時の価額を下回ることもあります。

お申込みの際は最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)をご覧ください。

「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求、お申込みは

設定・運用は

eastspring
investments

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号
加入協会 社団法人 投資信託協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会

PCAアセット・マネジメント株式会社は、2012年2月14日付けで商号を「イーストスプリング・インベストメンツ株式会社」に変更いたしました。

今後も高い経済成長が期待される人口大国インド 動き始めたインドのインフラ整備

- インドは1991年の経済改革を経て、高い経済成長を達成。2011年から2016年の実質GDP成長率（予測値）の平均は、約8.0%と新興国の中でも高い成長が予想されています（出所:IMF世界経済見通しデータベース(2011年9月)）。
- 一方、インドは経済発展に不可欠なインフラの整備の面ではまだ遅れています。
- インド政府は「インフラ整備」を国家事業の最重要課題の1つとしており、今後のインフラ整備の進展が、インドの経済成長を支えていくと予想されます。

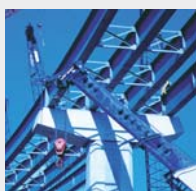
「インフラ」とは

道路、鉄道、空港、港湾、電力、ダムなど、経済発展のためにも不可欠な社会基盤のことです。

日本もかつて高度経済成長期に、高速道路、新幹線などのインフラが次々に整備されたことによって、経済全体の生産性が向上し、経済成長が促進されました。

インドの経済成長を後押しする多面的なインフラ整備計画

1 道路



2 運輸



3 電力



4 石油・ガス



5 通信



- 物流の活性化、効率化
- エネルギー供給能力の増強
- 通信網の拡大

経済成長を新たな段階に導く原動力に

インドの概要

- 首都:ニューデリー
- 面積:328.7万km²
- 人口:約12.1億人(2011年国勢調査(暫定値))
- 言語:連邦公用語はヒンディー語、他に憲法で公認されている州の言語が21
- 宗教:ヒンドゥー教徒80.5%、イスラム教徒13.4%、キリスト教徒2.3%、シク教徒1.9%、仏教徒0.8%、ジャイナ教徒0.4%(2001年国勢調査)
- 政治体制:共和制
- 通貨:ルピー(2011年12月末現在、1ルピー=1.454円)
- 主要産業:農業、工業、鉱業、IT産業



出所:外務省、Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※上記は作成時点において各種データに基づき作成したものです。必ずしもその情報の正確性、完全性を保証するものではなく、今後記載内容に変更が行われることもあります。また、記載内容が将来期待通りにならないことで運用環境が悪化する可能性もあります。さらに、将来の運用成果をお約束するものではありません。当ファンドのリスクは3ページ「当ファンドのリスクについて」、手数料等の概要は8ページ「ファンドの費用」の欄にてご確認いただけます。また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

イーストスプリング・インド・インフラ株式ファンド

当ファンドのリスクについて

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて主に値動きのある有価証券に投資するため、当ファンドの基準価額は投資する有価証券等の値動きによる影響を受け、変動します。また、外貨建資産に投資しますので、為替変動リスクもあります。したがって、当ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。当ファンドの運用による損益は、すべて投資者のみなさまに帰属します。

<基準価額の変動要因となる主なリスク>



株価変動リスク 政治経済情勢や発行企業の業績の変化により株式の価格が変動するリスク

株式の価格は、内外の政治経済情勢、株式を発行する企業の業績および信用状況等の変化の影響を受け変動します。当ファンドは主に株式に実質的に投資を行いますので、基準価額は株価変動の影響を受けます。



為替変動リスク 為替レートの変動による外貨建資産の価格変動リスク

当ファンドは、実質的に組入れた外貨建資産について原則として為替ヘッジを行いませんので、為替レートの変動の影響を受けます。為替相場が円高方向に変動した場合には、基準価額の下落要因となります。



信用リスク 有価証券の発行者の経営・財務状況の悪化などにより有価証券の価格が下落するリスク

有価証券の発行者の経営・財務状況やそれらに対する外部評価の悪化により、組入れた有価証券の価格が大きく下落し、基準価額の下落要因となる場合があります。



流動性リスク 市場における有価証券の取引量が少なく希望価格で売却できないリスク

組入れた有価証券の市場規模が小さく取引量が少ない場合や市場が急変した場合、当該有価証券を希望する時期や価格で売却できないことがあり、基準価額の下落要因となる場合があります。



カントリーリスク 投資対象国・地域の政治・経済・社会情勢の変化による有価証券の価格変動リスク

新興国の金融市場は先進国に比べ、安定性、流動性等の面で劣る場合があります。政治、経済、国家財政の不安定要因や法制度の変更等に対する市場感応度が大きくなる傾向があります。これに伴い、投資資産の価格が大きく変動することや投資資金の回収が困難になることがあり、基準価額の下落要因となる場合があります。

(注) 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（流動性の極端な減少等）があるときは、購入・換金のお申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けたお申込みの受け付けを取消すことがあります。
- 分配金は計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。))を超過して支払われる場合があるため、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後は純資産が減少し、基準価額が下落する要因となります。投資者のファンドの購入価額によっては、支払われた分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

※詳細につきましては、最新の「投資信託説明書」をご覧ください。

インドの経済成長を後押しする多面的なインフラ整備計画

1 道路

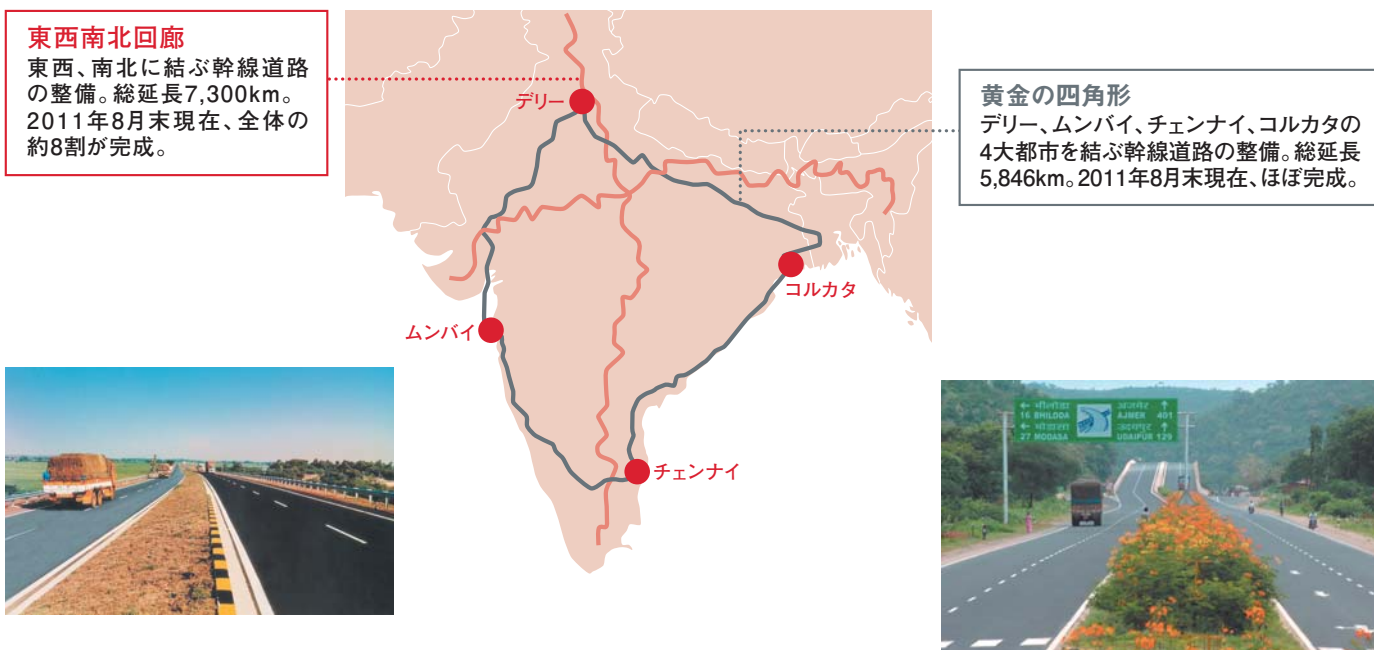
- ・インドでは、全道路網の中で輸送の中心となる高速道路／国道の比率は道路総延長のわずか2%です。
- ・高まる物流ニーズや渋滞の増加に対応して「幹線道路開発計画」が急ピッチで進行しており、多くの民間企業が建設事業を受注しています。

東西南北回廊

東西、南北に結ぶ幹線道路の整備。総延長7,300km。2011年8月末現在、全体の約8割が完成。

黄金の四角形

デリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタの4大都市を結ぶ幹線道路の整備。総延長5,846km。2011年8月末現在、ほぼ完成。



出所:インド高速道路局(NHAI)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

2 運輸

- ・港湾事業は以前、政府が独占的に管理していましたが、現在は民間企業による港湾開発・運営を促す方向に政策転換しています。
- ・増加する旅客数および物流量に対応するために、鉄道・空港の整備や建設が進められています。



提供:AFP=時事

港湾

貨物取扱能力および効率の向上のため、主要港ではBOT方式*による整備が進行。



提供:国際協力銀行

鉄道

デリー⇄ムンバイ、デリー⇄コルカタ間(約2,800km)に高速貨物専用鉄道を建設予定。



空港

ナビ・ムンバイ空港をはじめ、各地に新空港を建設中・予定。

※BOT方式とは…民間企業が建設、運営し、最終的に政府機関などに譲渡する方式のこと。

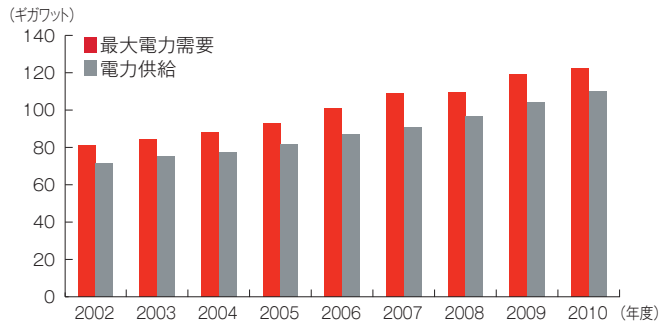


※上記は作成時点において各種データに基づき作成したものです。必ずしもその情報の正確性、完全性を保証するものではなく、今後記載内容に変更が行われることもあります。また、記載内容が将来期待通りにならないことで運用環境が悪化する可能性もあります。さらに、将来の運用成果をお約束するものではありません。当ファンドのリスクは3ページ「当ファンドのリスクについて」、手数料等の概要は8ページ「ファンドの費用」の欄にてご確認いただけます。また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

3 電力

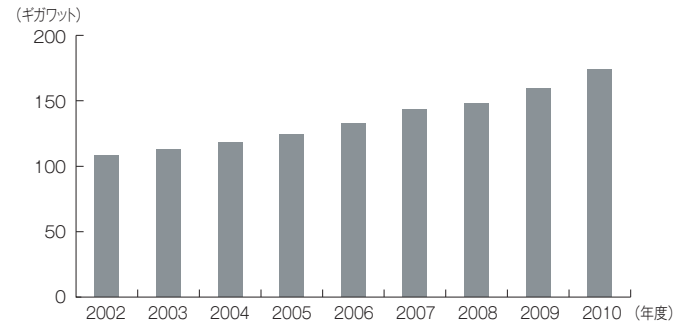
- ・インドでは電力需要の増大に対して、供給量が不足しており、2010年度の不足率は9.8%となっています。
- ・政府は2012年から実施される第12次5ヵ年計画の中で電力供給能力の強化が経済成長の重要な鍵になるとしており、発電設備容量の拡大や発電所の稼働率の向上、送電の効率化を進めています。

最大電力需要と供給量の推移



出所:インド電力省のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

発電設備容量の推移

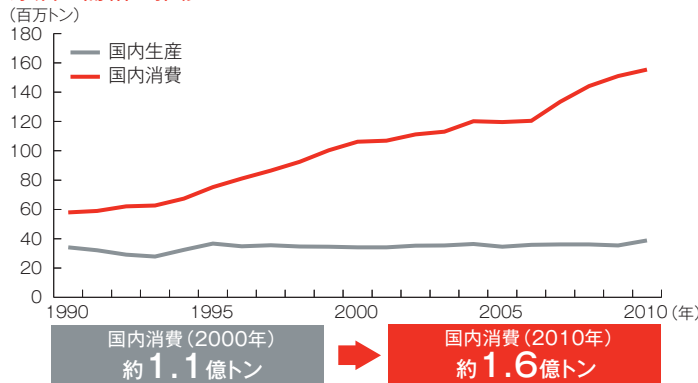


出所:インド電力省のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

4 石油・ガス

- ・近年の急速な経済発展に伴い、インドの原油および天然ガスに対する需要は急増しています。国内の生産量は消費に追いついておらず、ともに輸入に依存しています。

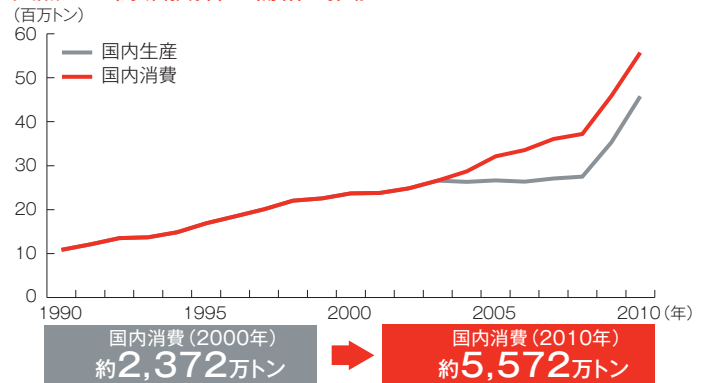
原油の需給の推移



約1.5倍へ拡大

出所:BP 世界エネルギー統計(2011年6月)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

天然ガス(原油換算)の需給の推移



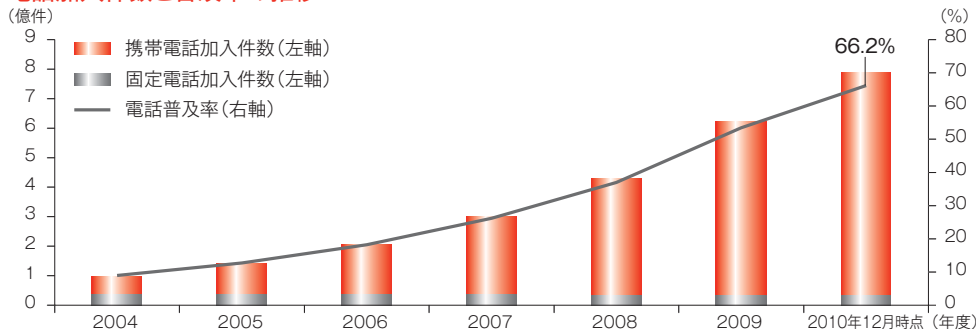
約2.3倍へ拡大

出所:BP 世界エネルギー統計(2011年6月)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

5 通信

- ・携帯電話の加入件数は急拡大しており、2010年12月末時点で約7.5億件に達しました。
- ・携帯電話を中心に電話の普及率は上昇しているものの、人口規模などを考慮すれば、拡大の余地が大きいと考えられます。

電話加入件数と普及率の推移



出所:インド通信IT省(Annual Report 2010-11)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。



※上記は作成時点において各種データに基づき作成したのですが、必ずしもその情報の正確性、完全性を保証するものではなく、今後記載内容に変更が行われることもあります。また、記載内容が将来期待通りにならないことで運用環境が悪化する可能性もあります。さらに、将来の運用成果をお約束するものではありません。当ファンドのリスクは3ページ「当ファンドのリスクについて」、手数料等の概要は8ページ「ファンドの費用」の欄にてご確認いただけます。また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目録見書)」をご覧ください。

「イーストスプリング・インド・インフラ株式ファンド」の特色

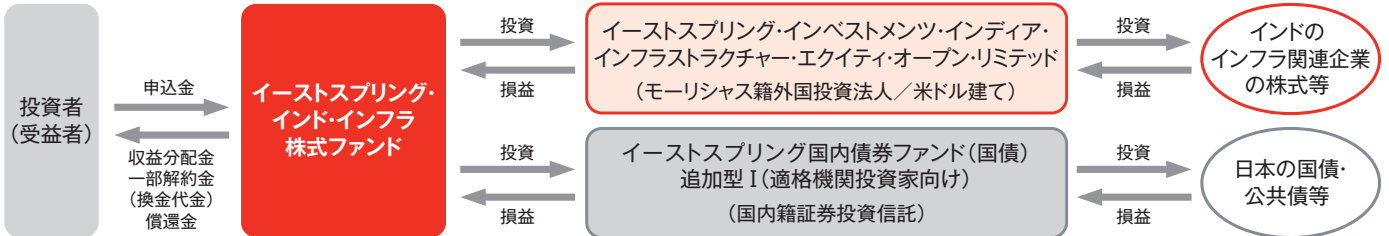
1 主としてインドの金融商品取引所に上場されているインフラ関連株式に実質的に投資を行います。

■ モーリシャス籍外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン・リミテッド」(以下「インディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン」ということがあります。)(米ドル建て)への投資を通じて、主としてインドの金融商品取引所に上場しているインフラ関連企業の株式に実質的に投資を行います。

2 ファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。

ファンドの仕組み

■ 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。



※原則として「イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン・リミテッド」への投資比率を高位に保ちます。

※「イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン・リミテッド」は、2012年2月14日を目安として、旧ファンド名(PCAインディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン・リミテッド)からの名称変更を予定し、関係当局に申請しています。

3 原則として、為替ヘッジは行いません。

■ 実質的に組入れた外貨建資産について、原則として為替ヘッジは行いません。そのため、為替相場の変動の影響を受けることになります。

4 イーストスプリング・インベストメンツの属するグループのネットワークを最大限活用します。

■ 「インディア・インフラストラクチャー・エクイティ・オープン」は、イーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドのアジア株式運用チームが運用を担当します。同チームは、グループ内のアジア各国・地域の運用会社と連携して運用を行っています。

■ 銘柄選択に当たっては、イーストスプリング・インベストメンツの属するグループのインドの運用会社(ICICIAM)から投資助言を受けます。

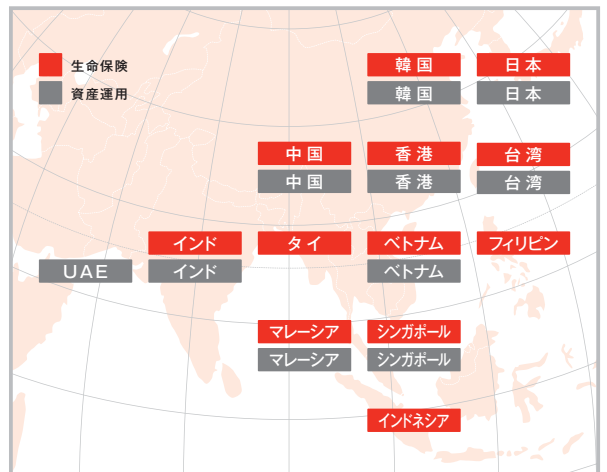
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について

160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

● イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。

● イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。

● 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、2011年12月末現在、アジアでは13の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2011年6月30日現在、約3,495億ポンド(約45兆円、1ポンド=128.76円)に上ります。



イーストスプリング・インベストメンツの属するグループのインドの運用会社が投資助言を行います。

■ 1993年にインド大手の民間銀行ICICI銀行の資産運用会社として設立され、1998年からはイーストスプリング・インベストメンツの属するグループとの合併で事業を展開しています。ICICI銀行は、50年以上の歴史を持ち、2011年3月末における総資産は約4兆623億ルピー(約7兆5,519億円、1ルピー=1.859円で換算)となっています。

■ 設立以来、順調にインド国内でのシェアを拡大している、インド大手の運用会社です。(2011年9月末時点運用資産総額約7,521億ルピー(インドにおけるシェア約10.5%) 出所:インド投信協会(Association of Mutual Funds in India))

■ 主要投資対象の外国投資法人の運用においては、同社の有する企業調査情報を最大限活用した投資助言を行います。



当ファンドのリスクは3ページ「当ファンドのリスクについて」、手数料等の概要は8ページ「ファンドの費用」の欄にてご確認ください。また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、当ファンドの参考となる情報の提供およびその内容やリスク等を説明するために作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて主としてインド株式を投資対象とします。当ファンドの基準価額は、実質的に組入れた有価証券の値動きのほか、有価証券の発行者の経営・財務状況の変化および格付けの変更等の外部評価の変化、為替相場の変動等による影響を受けることから、投資元本を下回ることがあります。

投資信託のお申込みに関してご留意いただきたい事項

- ◇投資信託は、預金および保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護および補償の対象ではありません。また、登録金融機関で取扱う場合、投資者保護基金の補償対象ではありません。
- ◇過去の実績は、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ◇投資信託は、株式、公社債等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、ご購入時の価額を下回ることもあり、投資元本が保証されているものではありません。これらに伴うリスクおよび運用の結果生じる損益は、すべて投資者のみなさまの負担となります。
- ◇ご購入の際は、あらかじめ最新の投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を必ずご確認のうえ、投資のご判断はご自身でなさいますようお願いいたします。



当ファンドのリスクは3ページ「当ファンドのリスクについて」、手数料等の概要は8ページ「ファンドの費用」の欄にてご確認いただけます。また、それぞれの詳細につきましては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

イーストスプリング・インド・インフラ株式ファンド 追加型投信／海外／株式

お申込メモ 当ファンドの詳細につきましては、最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

購入単位	販売会社がそれぞれ別に定める単位とします。
購入価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	購入代金はお申込みの販売会社の定める日までにお支払いください。
換金単位	販売会社がそれぞれ別に定める単位とします。
換金価額	換金の受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額とします。
換金代金	換金の受付日から起算して原則として7営業日目からお支払いします。
購入・換金申込受付不可日	営業日が以下①～④の日のいずれかにあたる場合は、購入・換金のお申込みはできません。 ①インドの金融商品取引所の休場日 ②モーリシャスの銀行休業日 ③シンガポールの銀行休業日 ④日本におけるシンガポールの銀行休業日の前営業日
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込分とします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情がある場合には、購入・換金のお申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けたお申込みの受け付けを取消すこと、またはその両方を行うことがあります。
信託期間	約10年(平成18年11月8日から平成28年11月21日まで)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、信託終了前に信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、委託会社の判断により繰上償還を行う場合があります。
決算日	原則として毎年5月20日および11月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	原則として年2回の決算時に収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。 また、受益者と販売会社との契約によっては、税金を差引いた後、無手数料で収益分配金の再投資が可能です。
信託金の限度額	3,000億円
公告	受益者に対する公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	委託会社は、年2回の決算時および償還時に運用報告書を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。益金不算入制度および配当控除の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- **購入時手数料** 3.15%(**税抜3.0%**)を上限として販売会社がそれぞれ別に定める率を、お申込受付日の翌営業日の基準価額に乗じて得た額を購入時にご負担いただきます。
- **信託財産留保額** 換金の受付日の翌営業日の基準価額に**0.3%**の率を乗じて得た額を換金時にご負担いただきます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- **運用管理費用(信託報酬)** 純資産総額に対して年率1.28835%(**税抜1.227%**)を乗じて得た額が毎日費用として計上され、毎計算期末または信託終了時に信託財産から支払われます。

配分	委託会社	年率0.52500%(税抜0.500%)
	販売会社	年率0.73500%(税抜0.700%)
	受託会社	年率0.02835%(税抜0.027%)
投資対象とする投資信託証券		年率0.60%(上限)
実質的な負担		年率1.88835%(上限)(税込)

- **その他の費用・手数料** 有価証券の売買時の売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、監査費用等を信託財産よりご負担いただきます。

※「その他の費用・手数料」は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を表示することができません。

*手数料等の合計額もしくはその上限額またはこれらの計算方法の概要は、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社およびファンドの関係法人 委託会社およびその他の関係法人の概要は以下の通りです。

委託会社	イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 社団法人 投資信託協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会 当ファンドの委託会社として信託財産の運用業務等を行います。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社) 当ファンドの受託会社として信託財産の保管・管理業務等を行います。
販売会社	販売会社に関しては、次の照会先までお問合せください。 イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 TEL.03-5224-3400 (受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで) ホームページアドレス www.eastspringinvestments.co.jp 当ファンドの受益権の募集の取扱いおよび販売、換金に関する事務、収益分配金・換金代金・償還金の支払いに関する事務等を行います。